

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>信用が資本の人づくり ～ビジネス社会の未来を担い、地域を支える人材を育成する教育プログラムの開発を通じた新しい商業高校モデルの構築～</p>		
2 研究の概要	<p>本研究は、知識基盤社会やグローバル社会に対応できる幅広い知識や柔軟な思考力を、本校がもつ様々な財産やネットワークを有効に活用しながら身に付けさせ、時代の変化や社会のニーズを事業に結び付けながら新しい価値を創り出すことのできる人材として、またビジネスの専門的知識を活用し既成概念にとらわれないチャレンジ精神でこれからの地域産業界の活性化を担う人材として必要な下記の資質・能力を育成するための人材育成プログラムを開発し、新しい商業高校モデルを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地元の大学、企業、経済団体などとの連携を通じた、高付加価値な商品・サービスの開発を担うベンチャーに必要な資質・能力を身に付けた人材の育成 2 銀行、証券会社、生命保険・損害保険会社等に関する企業研究及びその職務の研究などを通じた金融を担う資質・能力を身に付けた人材の育成 3 資格取得への挑戦を通じた、職業会計人、情報処理技術者、ファイナンシャルプランナーなどの職業に就くために必要な資質・能力を身に付けた人材の育成 		
3 令和2年度実施規模	<p>下記の研究計画のプログラムを実施した学年、学科は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (1) 1 (2) 3 (3) 全学年 (840名) 2 (1) . . . 1学年 (280名) ・ 2学年商業科 (200名) (2) . . . 1学年 (280名) 3 (1) . . . 1・2年情報処理科 (160名) 3 (2) . . . 2学年ビジネス進学コース (40名) 		
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <p>基本的には、3年間、教育プログラムの項立てを変えずに、他の学年や科目での取り組みに広げ、新しい活動内容を取り入れていく。</p> <table border="1" data-bbox="185 1541 1390 2051"> <tr> <td data-bbox="185 1541 357 2051">第1年次</td> <td data-bbox="357 1541 1390 2051"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 </td> </tr> </table>	第1年次	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成
第1年次	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携、高大連携を通してビジネスに関する最新の知識・技術を習得するとともに、起業家精神の理解を図る。 ・課題研究を通して言語活動を充実させ課題解決能力等の育成を図る。 ・商品開発を通して企画・創造能力の育成を図る。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの役割やチームビルディングの手法等について理解を図る。 ・小・中・高・企業と連携した取り組みによりリーダーシップの育成を図る。 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・Conversation、Speech を中心に取り組み実践的な英語の技能向上を図る。 (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修を通して、日本の伝統・文化を再認識し、個々の幅広い教養を身に付ける。 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・Java によるプログラミング能力の向上を図る。 (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・会計情報の分析・活用能力の基礎・基本の育成を図る。 (3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・金融について基礎・基本の理解を図るとともに、FP 検定 3 級へ挑戦する。 ・金融に特化したインターシップ 実施により金融業務の理解を図る。
第 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナーをはじめとする各種コンテスト等に積極的に参加する。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを高めるため、メンタルトレーニングについて理解する。 ※上記 (1) (2) のプログラムとも 1 年次の実施事業は、引き続き同様に実施 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・Presentation を中心に取り組みより実践的な英語力向上を図る。 (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる言語・文化・価値を学び、国際的感覚やグローバルな視野を深める。 ※上記 (1) (2) のプログラムとも 1 年次の実施事業は、引き続き同様に実施 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・データベースの構築から実装まで Microsoft Access を用いて取り組む。 (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・企業会計に関する法規を踏まえて経営管理や分析ができるようにする。 (3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・各種コンテスト等に積極的に挑戦し、金融経済の仕組みを理解する。 ※上記 (1) (2) (3) のプログラムとも 1 年次の実施事業は、引き続き同様に実施
第 3 年次	<ul style="list-style-type: none"> 1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・台湾人向けイバウンドを意識した旅行商品を考案する。 (2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科と連携しディベート的な場面を通してリーダーシップを発揮させる。 ※上記 (1) (2) のプログラムとも 1・2 年次の実施事業は、引き続き同様に実施 2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力の育成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成

- ・ Discussion を中心に取り組み即興性を意識した実践的な英語力向上を図る。
- (2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成
 - ・ 海外でのプレゼンテーションを通して、グローバル社会で活躍できる力を身に付ける。
- ※上記(1)(2)のプログラムとも1・2年次の実施事業は、引き続き同様に実施
- 3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力の育成
 - (1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成
 - ・ 実務を意識し販売データを処理できる総合的なプログラムの開発を行う。
 - (2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成
 - ・ 英語の財務諸表を理解できるスキルを身に付けさせる。
 - (3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成
 - ・ F P 検定支援体制を構築し、F P 検定へ挑戦する。
- ※上記(1)(2)(3)のプログラムとも1・2年次の実施事業は、引き続き同様に実施

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

特記事項無し

○令和2(2020)年度の教育課程の内容（令和2(2020)年度教育課程表を含めること）

本校では、商業科5クラス、情報処理科2クラスの合計7クラスで編成されている。商業科5クラスは入学時より進路を意識したコースや系列を設けている。1学年ではビジネス総合コース4クラスとビジネス進学コース1クラスで編成され、2学年ではビジネス総合コースの4クラスが就職を目指すキャリア系列3クラスと進学を目指すアドバンス系列1クラスに編成されている。（別紙「令和2(2020)年度教育課程表」参照）

○具体的な研究事項・活動内容

1. 他者と協働しながら、企画力・創造力を発揮し、主体的に地域創生に貢献できる力

(1) 企業・大学との連携による「起業家精神」の育成

① 起業家による講演（12月） 講師 （株）アオキシントック CEO 青木圭太 様

② 大学訪問（12月） 帝京大学、国際医療福祉大学を訪問

帝京大学 「起業」と企業家精神

国際医療福祉大学 「組織で求められるリーダーシップの在り方」

③ 「課題研究」の授業において、商業の各分野に関する課題を生徒が自ら設定し、主体的かつ協働的にその課題を探求し、実践的・体験的な学習活動を行う。

④ 新商品研究（通年）

各班が栃木の特産品を既存商品なども調べながら新商品案を考えた。アンケート調査や聞き込み調査も行い、コンセプトの設定やターゲットの絞り込みなどを考え完成度を高めた。

⑤ 出前授業（9月～12月）

講師 （株）JTB 宇都宮支店 ワークショップデザイナー 早川勝重 様

観光開発プロデューサー 高橋政稔 様

⑥ 出前授業（月）講師 コボリ洋菓子店 店長 小堀正弘 様

⑦ 校内課題研究発表会（12月）

各クラス代表1グループを選出し、本校体育館にて1年間の研究成果の発表をした。

⑧ 課題研究クラス内発表会（12月）

各グループが研究内容を10分程度にまとめ、パワーポイントを使用してクラス内でプレゼンテーション発表を行った。

(2) 小・中・高・企業との連携による「リーダーシップ」の育成

- ①講演会 全1年生対象 講師 ヤマゼンコミュニケーションズ (株) 常務取締役 山本純子 様
- ②講演会 全2年生対象 講師 作新学院大学経営学部教授 笠原 彰 様
- ③ビブリオバトル 全3年生対象

2. 国際的感覚を身に付けグローバルに活躍できる力

(1) 自分の意思を的確に伝える「英語によるコミュニケーション能力」の育成

- ①クラス内スピーチ発表会
 - ア. Show & Tell 自分のお気に入りの写真や物についての説明。(1年1学期)
 - イ. 身近な話題で簡潔に賛成意見と反対意見を述べる。(1年2学期)
 - ウ. "What I'm interested in" についてリサーチをして発表を行う。(2年1学期)
- ②クラス内プレゼンテーション・討論発表会
 - ア. グループごとにフリーテーマで Power Point を用いて発表を行う。(2年2学期)
 - イ. グループ対抗でディスカッションや簡単なディベートを行う。(3年2学期)
- ③英語を含む外国語学習に対する意識調査
- ④講演会 講師 英語通訳案内士 平野聖乃 様 「英語を活用する力をつけるために」

(2) 国際交流を通じた「グローバルな視野」の育成

- ①講演会 講師 仙波糖化工業株式会社 取締役総務部長
栃木県産業教育審議会 副会長 市川剛久 様
- ②生徒による「グローバルな視野」育成伝達報告会 11月18日(水) 1年生280名対象

3. スペシャリストとして、地域産業界の活性化を担うことのできる力

(1) 情報化社会の進展に対応できる「情報処理・活用能力」の育成

- ①教科における学習
情報処理科の1年生は情報処理(2単位)とプログラミング(5単位)を履修し、Javaの特性を活かしたプログラミングを学習させた。また、情報処理科2年生はビジネス情報管理(5単位)を履修し、データベースの設計・構築を考えさせることで、データベースの基礎を学習させた。
- ②情報処理技術者試験対策講座(年3回実施)
本校同窓会からも支援をいただき、専門学校で受験対策の学習ができる環境を提供した。
- ③企業の「情報システム担当者」による講話(12月)
講師 藤井産業(株) インフラ営業技術課専門課長 荒井健二 様(情報処理安全確保支援士)
- ④プログラム開発(グループ研究)(2月)(10時間程度)
情報分析プログラムを作成させるグループワークを実施。協働することで「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れるとともに、思考力の育成と知識の定着を図る。
1年生: 気象データを用いたJavaによるデータ分析 2年生: データベースシステムの設計

(2) 会計人としての「会計情報の分析・活用能力」の育成

- ①講演(9月) 講師 中央大学経理研究所専任講師 公認会計士 小島一富士 様
- ②講座(9月) 講師 東京CPA会計学院 山内 樹 様
- ③講座(9月) 講師 ネットスクール株式会社 藤本拓也 先生
- ④講座(10月) 講師 明治大学 商学部 専任教授 前田 陽 先生

(3) 金融教育を通じた「金融リテラシー能力」の育成

- ①講演(10月)2・3年 講師 (株) 栃木銀行金融サービス部 副調査役 大栗敬史 様
- ②売買に関する計算の学習(金利や利息についての計算) 1年生「ビジネス基礎」
- ③FP講座(10月~1月 10回実施)

講師 ファイナンシャルプランナー 参加生徒 3年3級FP技能検定受験希望者 40名

④バーチャル株式体験学習プログラム（STOCKリーグ）に参加 3年3チーム

⑤全国高校生金融経済クイズ選手権（エコノミクス甲子園）に挑戦 3年（9位入賞）

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法（普及状況については、可能な範囲で、他校・他地域への波及効果などを記載すること）

研究成果については、全国産業教育フェア大分大会における発表およびオンライン協議、県教委主催のとちぎの高校生課題研究等発表会や県内の商業科教員が一堂に会する栃木県商業教育研究大会等により、栃木県内の高校や県全体の商業関係の専門高校で共有化を図っている。また、生徒自身がPTA総会や同窓会総会、校内課題研究発表大会等や、中学生が来校する一日体験学習で発表することで本校の取組を知ってもらう機会としている。また、本校のホームページにSPHの項目を設け、SPH事業関連の行事等を掲載し地域をはじめ全国に広く本校の取組を紹介している。

○実施による効果とその評価（数値や客観的なデータ等も用いながら記載すること）

- (1) 起業家精神の育成では、大学訪問や講演会、課題研究や商品開発を通して、チャレンジ精神の重要性や起業に対する関心が高まっている。大学訪問後の生徒のアンケート結果では、95%以上が、知識が高まり、起業と企業について考えるきっかけとなり、参加して良かったとの意見であった。商品開発を行った班の中には、企業や関係機関と連携するために、自らインタビューを実施する班や、自主的に企業に商品案を提案し、一時的な商品になった班もある。また、とちぎアントレプレナーコンテストに参加し、これまでのSPHの経験を活かし起業を考えることができた。教員による評価で80%以上が、行動力や思考力、判断力等、徐々に起業家精神が身に付き、発揮されていると判断した。
- (2) リーダーシップの育成では、1年生を対象にリーダーシップ講演会、2年生を対象にメンタルトレーニング講演会を行い、HRや生徒会等の場面で95%の生徒がリーダーシップを発揮できていた。以上の集大成として、3年生を対象に国語科と協力してビブリオバトルを実施したところ、96%の生徒が今までのSPH事業でリーダーシップが身に付き発揮できたと答えた。教員による評価では、リーダーシップが「かなり発揮できた」「発揮できた」が合わせて90%を超え、SPH事業による効果を実感する結果となった。
- (3) 英語によるコミュニケーション能力の育成では、3年生を中心に「テーマに沿って自分の意見を述べたり、討論等を行う」という活動を行ったが、3年間を通しての各技能の自己評価において、8割以上の生徒が意識・能力の向上が図れたという結果を得た。多岐にわたる活動に苦勞しながらも意欲的に取組み、相手の考えを理解した上で自分の意見を述べることにより、約80%の生徒が今後の英語学習に対するモチベーションを高めることができた。
- (4) グローバルな視野の育成では、海外にも拠点を持ち展開する地元企業の方から、ビジネスの最前線における観点をもとにお話をいただき、99%の生徒がグローバルな視野の必要性を認識できたとともに海外市場を意識して働くことのイメージを持つことができた。さらに、生徒による伝達報告会等とあわせ、地元の客観的な理解の高まりや将来の仕事や職業に対する意識が高まった（教員による評価で80%以上）。
- (5) 情報処理・活用能力の育成では、講話の実施前後のアンケートで、授業に対する意識の向上が約96%の生徒に見られ、また、将来の職業に対する意識も「かなり高まった」、「高まった」と回答した生徒が全体の95%となった。1年生から具体的な職業を意識させることで、特に学科に適した情報処理に関する専門的な学習を、一層意欲的に取組む動機とすることができた。
- (6) 会計情報の分析・活用能力の育成では、授業や講座を通して、有価証券報告書から経営分析ができる能力を育成することができ、ビジネスにおけるグローバル化に対応するため、英文で

書かれた財務諸表のフレームワークを理解することができた。また、92.5%の生徒が適切に経営分析できるよう簿記・会計を継続して深く学びたいと考えるようになった。

さらに、このプログラムを通し、将来企業会計のエキスパートとして公認会計士や税理士等の職業会計人に就きたいという意識が高まった。（教員による評価 90%）

- (7) 金融リテラシー能力の育成では、講演を通してお金に対する正しい知識や金融商品の種類、内容について 97%の生徒が理解を深めることができた。また、経済や株式、金融への専門的知識が身についたか確かめるために、各種コンテストに積極的に参加した。エコノミクス甲子園では、35 チーム中 9 位入賞という結果を残すことができた。チームとして他校の生徒と競い合うことで、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養うことができた。

○実施上の問題点と今後の課題

- (1) 起業家精神の育成については、専門的な知識を学べ、学習意欲や行動力の向上を図れる大学訪問の機会ができるようにしたい。また、商品開発では、企業と協力することで、商品開発の着眼点や知識・経験などを吸収できるため、企業との連携を増やしていきたい。旅行商品は、多くの生徒が栃木県の観光プランを考える取り組みをするとともに、旅行プランを考え、旅行業者と連携しながら実際に販売できる旅行商品を考案させたい。アントレプレナーコンテストにも、積極的に参加し、企業家精神の育成に努めたい。
- (2) リーダーシップの育成では、1 年生でリーダーシップ講演会、2 年生でメンタルトレーニング講演会、3 年生でビブリオバトルを、学年の順を追って実施することによって、相乗効果が得られた。今後 SPH が終了しても、これらの活動を継続するために、事業の精選、日程の調整、予算の確保等に取り組んでいきたい。
- (3) 英語によるコミュニケーション能力の育成では、生徒の 4 技能 5 領域に対する意識調査を行い、各領域において 77%~88%の生徒が、「良い影響を受けた」と回答しており、自己能力評価で肯定的な捉え方ができるようになっている。今後はこの 3 年間の事業を踏まえた上で、各学年の目標を明確にして、活動内容を精査して授業展開を図っていきたい。
- (4) グローバルな視野の育成では、今後も台湾の学校等との Web 交流や現地校訪問等の再開とともに、全校生が関係する実現可能な旅行商品の開発を進めたい。また、引き続き講演会等により、日頃から海外の市場を意識したビジネス、さらには地域において世界をターゲットとしたビジネスを展開している先進例を学び、身近なことから一層視野が広がるよう取り組んでいきたい。
- (5) 情報処理・活用能力の育成では、1 年次で Java によるプログラミング、2 年次でデータ自体の意味を考えるデータベース設計などの能力を身に付けてきた。次年度はこれらを活かして、販売データなどが処理できる POS システムなど、実務を意識した総合的なプログラム開発を行うことを目標とした教育プログラムを展開したい。各学年での取り組みが、段階的かつ継続性のある指導で行われることで、生徒の情報処理に関する資質・能力の向上に努めたい。
- (6) 会計情報の分析・活用能力の育成では、次年度も新入生に対して早い時期に講演会を実施し、「社会における簿記会計の重要性」の意味を理解するとともに、商業高校に通っている意義を認識し学習意欲を高めていきたい。また、会計情報の理解や数値の判断等の理論的な思考を養うため、外部講師による講座を数回実施していきたい。
- (7) 金融リテラシー能力の育成では、F P 講演会を 2・3 年生に実施し、F P 技能検定取得のための講座を 11 月から 10 回実施した。次年度以降は、3 年生の「課題研究」において 2・3 級 F P 技能検定を目指す予定である。課題としては、2 年生の段階で F P 技能検定の必要性を理解し、3 年生で実際に 3 級・2 級と受験する体制を築くために教員側が F P 技能検定の難易度を把握するとともに、自己研修や資格取得のためのセミナーに参加し指導体制を構築する必要がある。

